

東松島復興推進員だより(第10号)

～地を往きて走らず～

野蒜地区にて活動する佐々木推進員は、これまで、復興に向けた地区懇談会や住民説明会、自治協議会などに参加し、会議の支援を行うと共に、野蒜市民センターにて各専門部会の活動にも加わり、住民の方々との繋がり作りやニーズの把握、活動協力などを行ってきました。

東松島市で復興を支援する中で、地区懇談会や自治協議会などに参加し議論しているのは家長が多く、「まちづくり」の話し合いの場に若い世代が少ないことに気づきました。将来の「まちづくり」を担う若い世代の声が反映されていません。

実際、若い人たちに聞いてみると、津波の被害で電車が不通のまま、病院も学校もないこの町で暮らすことにはためらいがあると言います。

将来の「まちづくり」を担う若い世代がもっと積極的に「まちづくり」に取り組んでいけるよう、議論をする場や意見を言っていける環境づくりが必要であるように感じています。



自治協議会の様子

東松島市で活動する NGO や NPO、社会福祉協議会、地元の若者 5 名を含めた計 8 名は若手グループ「青年有志会インパルス」を結成し、佐々木推進員はこ

れに参加しています。具体的な活動はこれから検討していきますが、若者が集まる「まちづくり」に向けて若者自身が動きだしました。

高齢化が進む中で若者が農業に興味を持ち農業で食べていける、またその過程で若者が「まちづくり」に興味をもち、参加していく。そんな若者が増える仕組みづくりの必要性も感じており、結成した若手グループでも被災した農家から学生や若者が農業を学んでいく事業も検討しています。

農地も今回の震災で大きな被害を受けました。海水をかぶってしまった場所は除塩を進めなければなりません。また、高齢化もあり市が実施したアンケートでは農業従事者のうち37.4%が「続けない」と回答しています。また、「検討中」の方も35.7%に上がります。

今後の復興の中で、被災農地の一部は商業区域に変更されたり、また、「環境未来都市」構想の中で太陽光発電ファームなどになる部分もありますが、耕作放棄地も発生しかねません。

若手グループではこれらの農地を農家さんと共同で利用し、農業体験、農業観光などを通して復興まちづくりへ繋がられないか検討しています。



若手グループによる農業体験



若手グループによる農業体験

また、野蒜地区では住民主体による復興部会の立ち上げが決まりました。行政の計画を待つだけでなく、住民側でも議論し行政の計画に提案をして住民主体の街づくりをしていく事を目標にしています。

農業者や若手グループとの繋がりを活かし、広い層の意見が取り入れられるように推進員として貢献できる役割は今後もさらに増えていくと考えています。

【復興まちづくり推進員ブログ】

<http://hmms0311fm.da-te.jp/>

【推進員だよりバックナンバー：JICA東北ホームページ】

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上

JICAは、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
